

サステナビリティへの取り組み

みずほフィナンシャルグループ

サステナビリティ企画部

2024年4月3日

ともに挑む。ともに実る。



パーパスを制定

〈みずほ〉の
DNA

フェアでオープンな立場

公益も踏まえ、仲間と協力し産業・事業の発展に貢献

時代の先を読む

先見性を持ち、産業の育成や金融業の発展に尽力

メガトレンド・潮流の変化

ウェルビーイングやサステナビリティへの意識の高まり

経済安全保障や新たなグローバリズム模索の動き

社会にAI等革新的なテクノロジーが浸透

低金利時代の終焉

経済を成長軌道に回復させる転換期

更なる未来へ

ありたき世界

個人の幸福な生活

サステナブルな社会・経済

企業理念
再定義

基本理念

〈みずほ〉はフェアでオープンな立場から、時代の先を読み、お客さま、経済・社会、そして社員の〈豊かな実り〉を実現する

パーパス

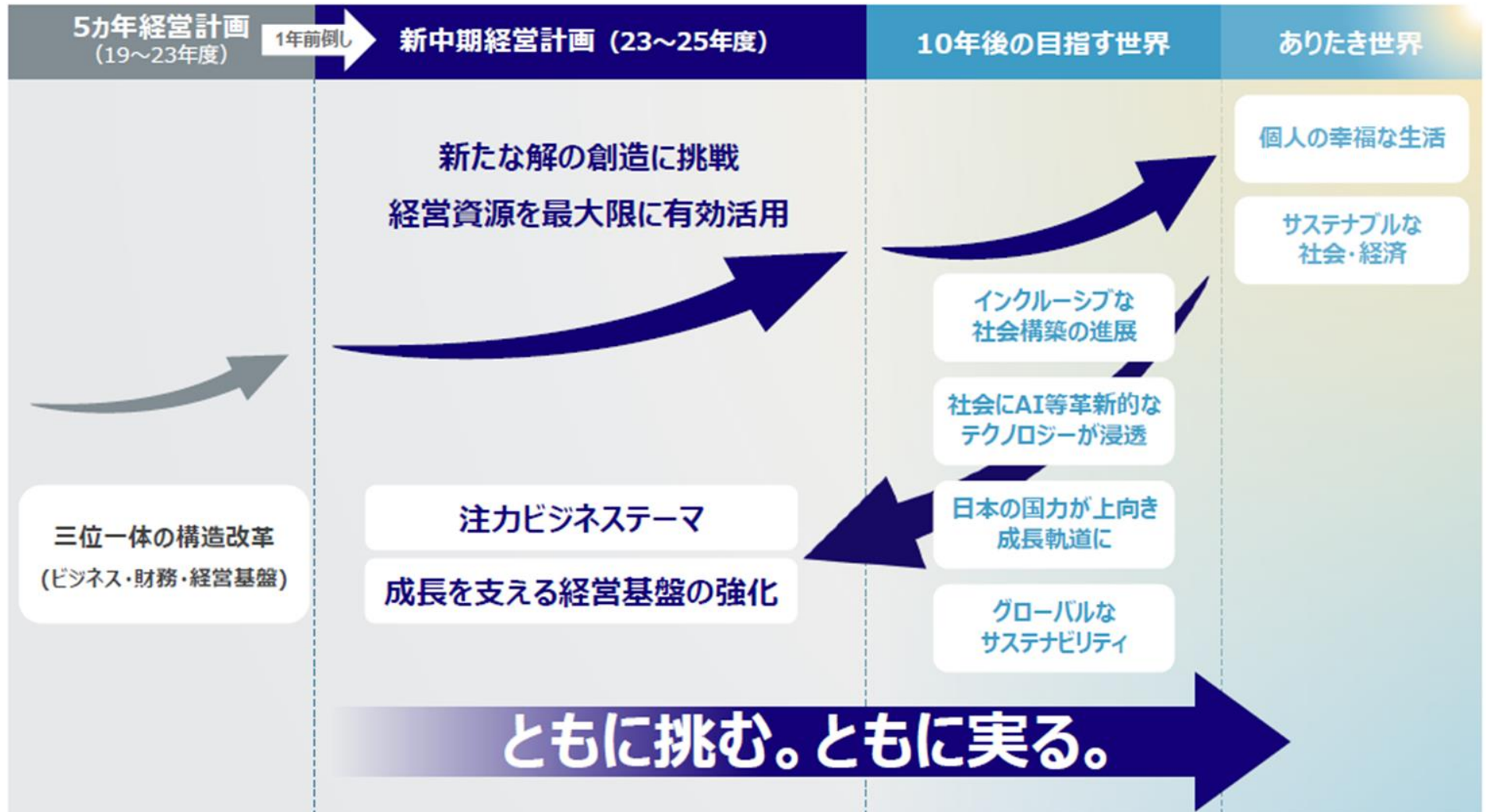
ともに挑む。ともに実る。

バリュー

変化の穂先であれ
Integrity・Passion・Agility・Creativity・Empathy

新中期経営計画の位置づけ

■ ありたき世界からバックキャストし、企業理念再定義とあわせ、新中期経営計画を策定



〈みずほ〉のマテリアリティ

マテリアリティの
定義

〈みずほ〉と、お客さま、社員、経済・社会をはじめとするステークホルダーの
持続的な成長・発展にとっての中長期にわたる優先課題

マテリアリティ

関連する主なSDGs（持続可能な開発目標）

幸福な生活
個人の

少子高齢化と
健康・長寿



人生100年時代の一人ひとりに
応じた安心・安全・便利



サステナブルな社会・経済

産業発展と
イノベーション



産業・事業の発展を支え、
グローバルに新たな価値を創造



健全な
経済成長



内外環境変化に対応する金融インフラ機能
の発揮を通じた経済発展への貢献



環境・社会



お客さまと共に環境の保全をはじめとする
社会の持続的な発展を実現



経営基盤

人材



自律的な企業文化のもと多様な社員が
活躍し、お客さま・社会とともに成長



ガバナンス



お客さま・社会に貢献するための強固な
企業統治と安定的な業務運営



中期経営計画における注カビジネステーマ

■ 「10年後の目指す世界」の実現に向け、〈みずほ〉が取り組むべき注カビジネステーマを選定

10年後の
目指す世界

インクルーシブな
社会構築の進展

社会にAI等革新的な
テクノロジーが浸透

日本の国力上向き
成長軌道に

グローバルな
サステナビリティ

個人の資産所得増加に向け
貯蓄から投資へのシフト促進



加速するサステナビリティ
意識の高まりへの対応



デジタルネイティブ世代の
多様な生活様式への対応



グローバル金融市場に
おける先進性の確保



時価総額が停滞する上場企業の
成長を促し、日本経済再興の
起爆剤に



「資産所得倍増」に向けた挑戦



顧客利便性の徹底追求



日本企業の競争力強化



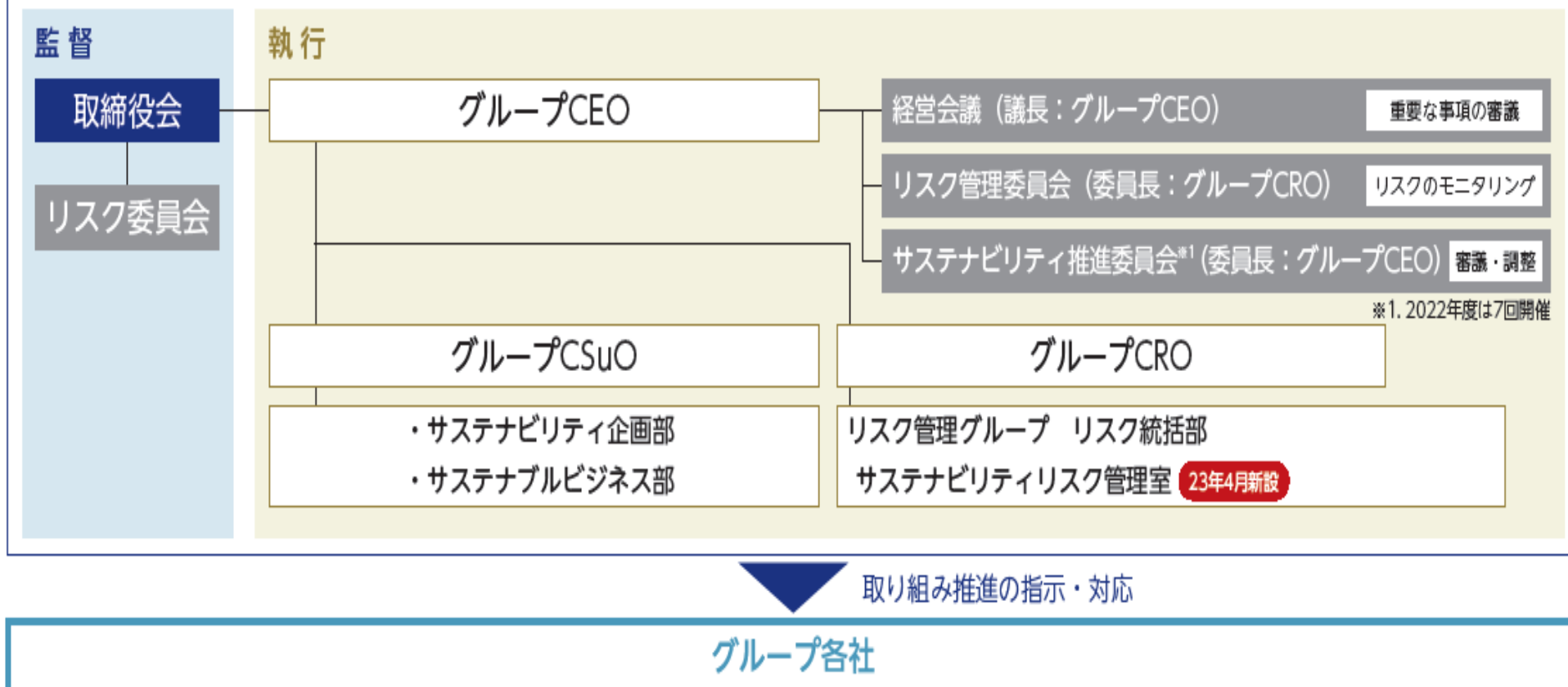
グローバルCIBビジネス



サステナビリティ&イノベーション

サステナビリティ推進体制

みずほフィナンシャルグループ



サステナビリティ情報開示

有価証券報告書

TCFDレポート



統合報告書

人権レポート



ブランドサイト「MIZUHO SX」

MIZUHO
SX 未来に先手を
社会に打ち手を

〈みずほ〉のSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）への取り組みについて、詳しくはこちら。

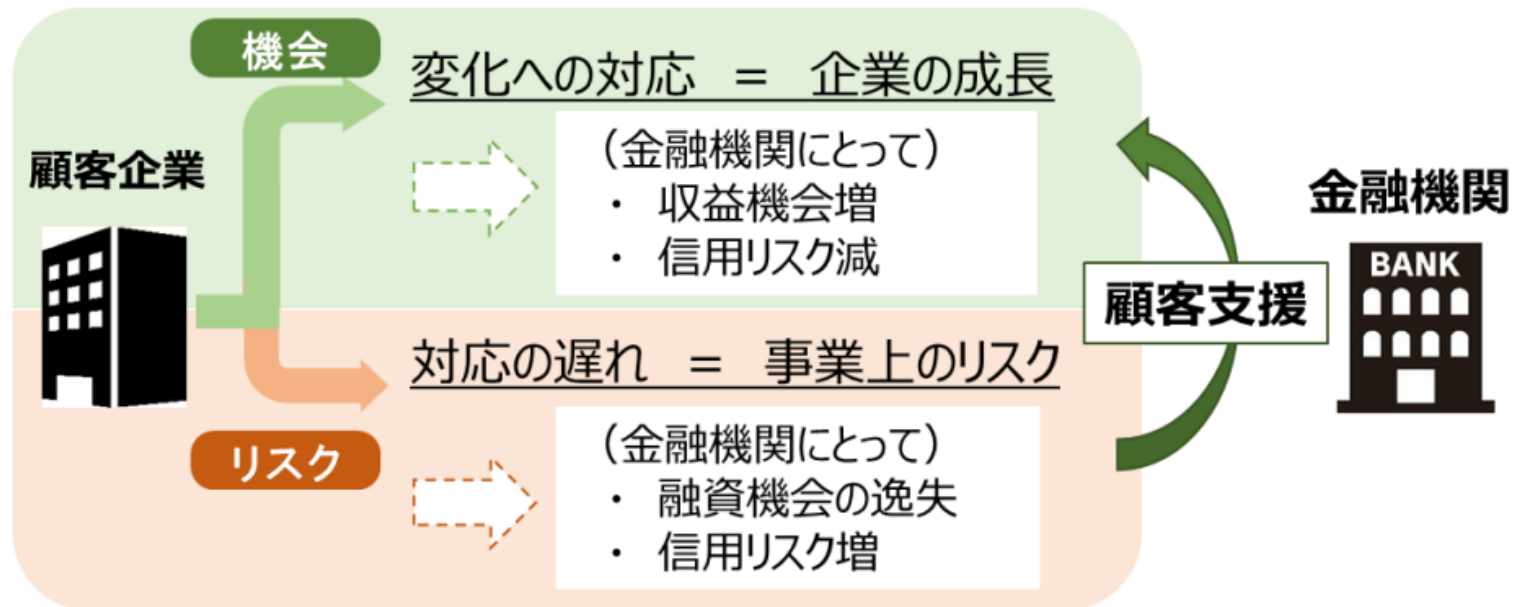


気候変動への取り組み

金融機関を取り巻く環境

- 気候変動は、金融市場の安定にも影響を及ぼしうる最も重要なグローバル課題の1つ
- お客様の気候変動対策・脱炭素社会への移行を支援することを金融機関は期待されている
- お客様の移行支援は、金融機関にとって、ビジネス機会の拡大と、リスクの低減につながる

カーボンニュートラル実現に向けて金融機関に対して期待される役割*



* 出所) 環境省「温室効果ガス排出削減等指針に沿った取組のすすめ～金融機関による支援～」

ネットゼロ移行計画

基礎	<p style="text-align: center;">方針 目指す姿・アクション</p> <p style="text-align: center;">環境方針（気候変動への取組姿勢） 2050年ネットゼロに向けた「みずほ」のアプローチ</p>	
ガバナンス	<p style="text-align: center;">移行計画に関するガバナンス態勢</p> <p>【承認・監督・報告】 移行計画は取締役会で決議されると共に、執行での議論を経て報告された進捗内容につき取締役会で監督する 【説明責任・レビュー】 執行は 移行計画の遂行に対して責任・権限を有し、定期的に計画の遂行状況をレビューし取締役会に報告する 【透明性】 移行計画の内容・取り組み状況は 定期的に外部ステークホルダーに開示・報告する</p>	
戦略	<p style="text-align: center;">重要課題の特定</p> <p>【マテリアリティ】 「環境・社会」を設定 【トップリスク】 「気候変動影響の深刻化」を設定 【シナリオ分析】 企業の移行リスク対応、エンゲージメントの重要性を認識 【重要セクター】 ネットゼロへの移行上 重要なセクターを特定 【次世代技術】 重要セクター関連の次世代技術を特定</p> <hr/> <p style="text-align: center;">ビジネス機会獲得 リスク管理</p> <p>金融・非金融ソリューション提供を通じた 脱炭素移行・構造転換支援 - トランジション資金供給、新ビジネス創出 等 リスク管理態勢・方針の継続的な高度化 - 炭素関連セクターリスクコントロール・ESポリシーの運用と継続的な見直し 等</p> <hr/> <p style="text-align: center;">エンゲージメント強化 ケイパビリティ・ビルディング</p> <p>取引先エンゲージメント ルールメイキングへの意見発信 SX人材の強化・社内浸透強化</p>	
指標・目標	<p style="text-align: center;">ビジネス機会獲得 リスク管理</p> <p>サステナブルファイナンス/ 環境・気候変動対応ファイナンス 目標 石炭火力発電所向け 与信残高削減目標 移行リスクセクターにおける 高リスク領域エクスポージャー</p> <hr/> <p style="text-align: center;">エンゲージメント ケイパビリティ・ビルディング</p> <p>取引先の移行リスクへの対応状況 SX人材 KPI</p> <hr/> <p style="text-align: center;">GHG排出削減</p> <p>自社排出（Scope1,2）削減目標 投融資を通じた排出（Scope3）削減目標</p>	

戦略（脱炭素ビジネス戦略）

社会・お客さま

脱炭素社会実現に向けて必要な取り組み

脱炭素を支える基盤づくり

経済・産業の構造転換

新しいテクノロジーの
実用化

脱炭素のスケール化・裾野拡大

国際連携

国内の波及
(地域、中堅・中小企業)

官民で連携した資金供給

〈みずほ〉

取り組みを
強化

産業構造転換やテクノロジー実用化など、個別領域での取り組み深化

トランジション資金供給体制確立に注力

官学ネットワークを構築し、意見発信・ルールメイキングに貢献

強みの発揮

産業・業界知見 技術の目利き力

グループ内外をつなぐ力

ファイナンスアレンジ力

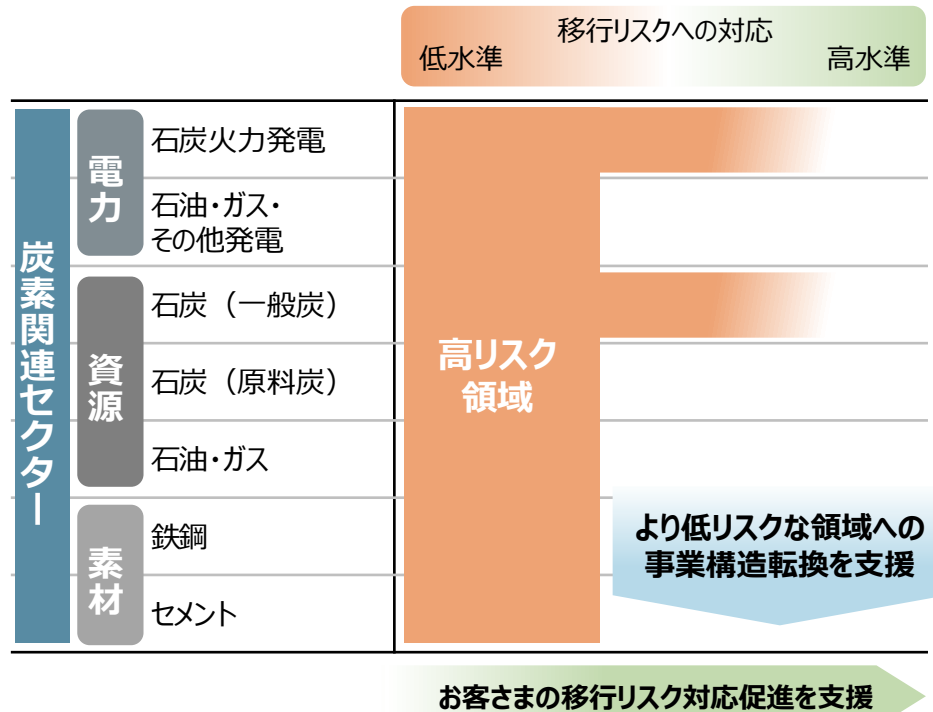
リスク管理（炭素関連セクター リスクコントロール）

炭素関連セクター リスクコントロール

2軸でリスクを評価し、お客さまのリスク区分を特定

お客さまの属するセクター

移行リスクへの対応状況



高リスク領域への対応方針

- 移行リスクへの有効な対応戦略の策定、または、より低リスクのセクターへの事業構造転換が、速やかに図られるようサポートするなど、より一層のエンゲージメントに取り組みます。
- お客さまの事業構造転換を後押しすべく、**トランジション支援の枠組み**において国際的なスタンダードが提唱する要件の充足等が確認できた場合には、高リスク領域においても、より積極的な支援を行います。
- 初回のエンゲージメントから1年を経過しても、移行リスクへの対応意思がなく、移行戦略も策定されない場合には、取引継続について慎重に判断します。
- これらを通じてリスクコントロールを強化し、中長期的に高リスク領域のエクスポージャーを削減していきます。

トランジション支援の枠組み

高リスク領域におけるお客さまの事業構造転換等への取り組みをよりサポートするための枠組み

- 1 移行戦略の信頼性や透明性が確認できるお客さまへの支援
- 2 再エネ等のグリーンな事業であることが確認できる案件への支援

お客さまとのエンゲージメント

お客さまのSX支援に向けたエンゲージメント（国内企業）

のべ約1,700社
(うち気候変動対応 約1,000社) *1

- お客さまのサステナビリティに関する適切なリスク管理や戦略の立案・実行等の支援に向けたディスカッション・提案*2

事業・財務戦略に関するディスカッション

約800社

アドバイザー業務の提供

約400社

ファイナンスソリューション構築・提供

約500社

*1 2022年4月～2023年3月（速報値）

*2 金融・非金融両面からのソリューション提供による支援に向けたディスカッション・提案（単なる情報提供・ディスカッションは含まず）

責任ある投融資の観点でのエンゲージメント

約1,100社

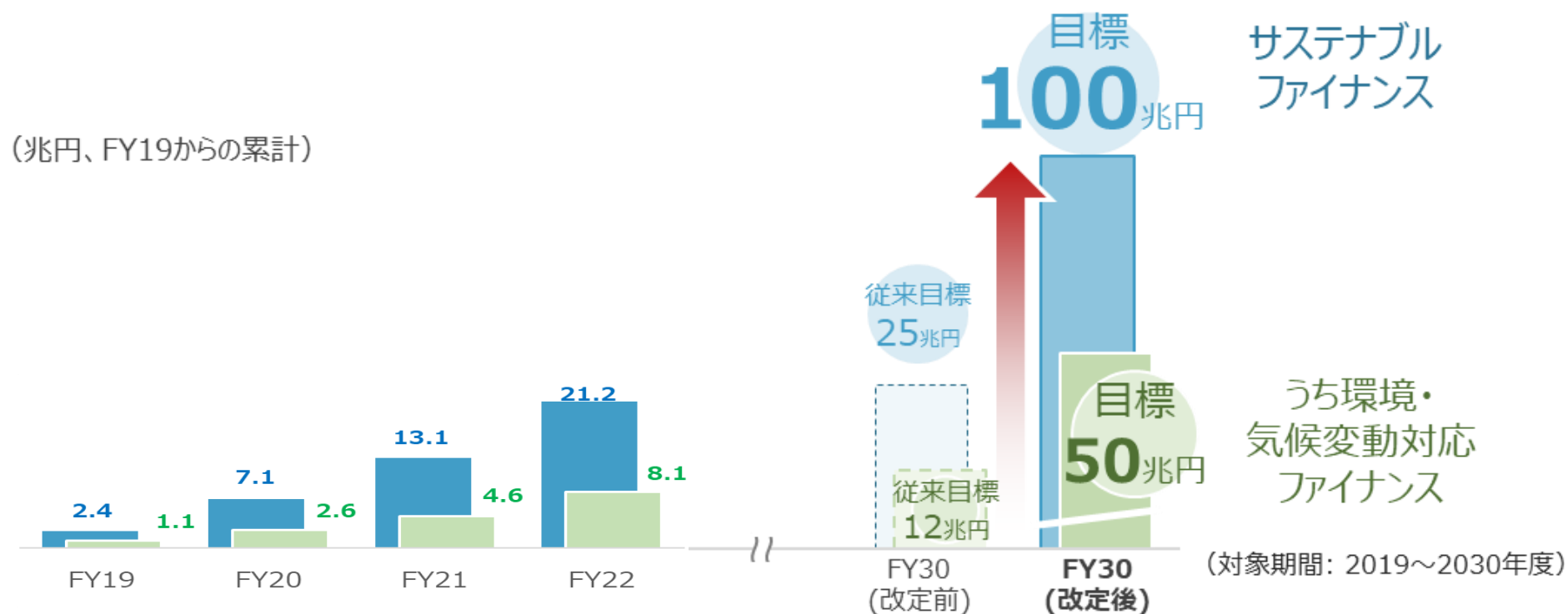
- 特定セクターのお客さまにおける、環境・社会への負の影響の防止・軽減に向けた対応状況を確認
- 移行リスクセクターのお客さまとは、気候変動に伴う機会・リスクに係る中長期的な課題認識を共有するとともに、移行リスクへの対応状況を確認

サステナブルファイナンス目標/環境・気候変動対応ファイナンス目標

〈みずほ〉が目指す役割

様々な主体と連携し、サステナブルな社会の実現に向けた資金の流れを作る

- ・ 脱炭素に向けて、ともに挑戦するお客さまに対し、トランジションに必要な資金をしっかりと提供



取引先の移行リスクへの対応状況

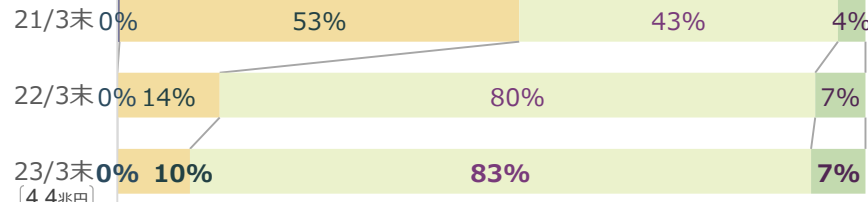
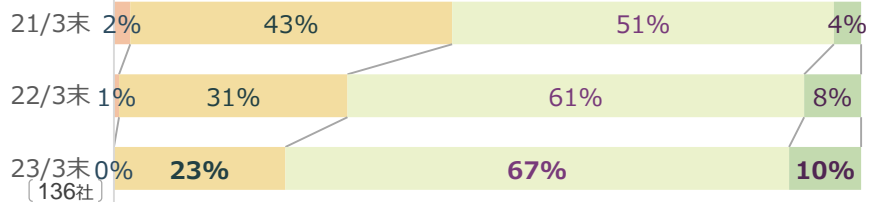
取引先の移行リスク対応状況の進捗 *1



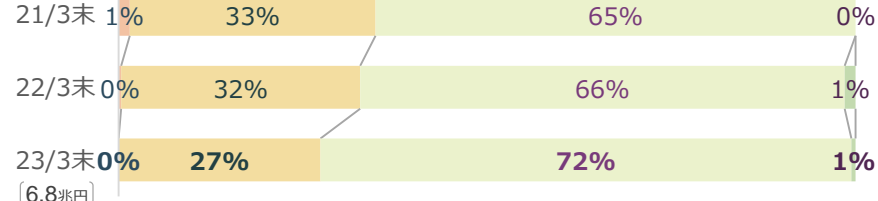
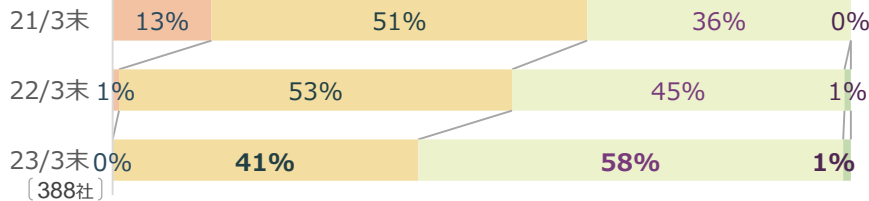
社数ベース

EXP金額ベース

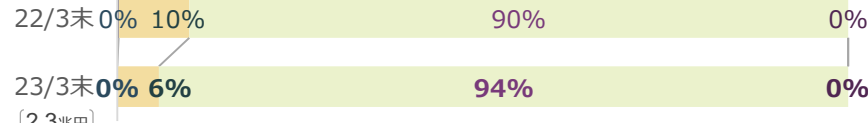
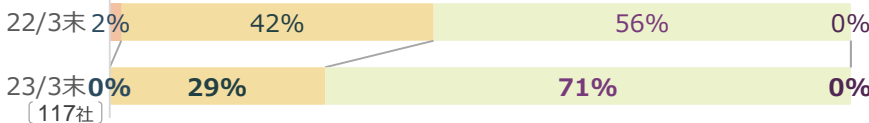
電力
(石炭/
石油/
ガス火力
発電)



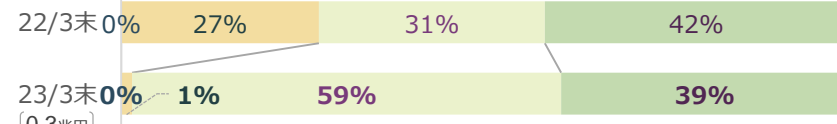
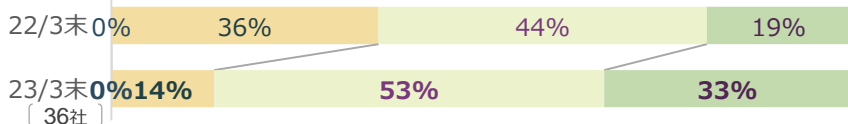
資源
(石炭採掘/
石油・ガス)



鉄鋼



セメント



*1: 対象：電力(石炭/石油/ガス火力発電、再エネ・原子力・送配電等は除く)、資源(石炭採掘、石油・ガス)、鉄鋼、セメント 向けのコーポレート与信 *2: Science Based Targets 等

投融資を通じた排出（Scope3）削減目標

セクター	対象 スコープ	指標	2030年度 中期目標	基準年実績
電力	Scope1	排出原単位 (kgCO ₂ e/MWh)	138 ~ 232 (IEA NZE~IEA SDS)	388
石油・ガス	Scope1,2	排出原単位 (gCO ₂ e/MJ)	4.2 (IEA NZE)	6.6
	Scope3	絶対排出量 (MtCO ₂ e)	2019年度比 ▲12~▲29% (IEA NZE~IEA SDS)	60.6
石炭採掘 (一般炭)	Scope1,2,3	絶対排出量 (MtCO ₂ e)	OECD諸国 2030年度ゼロ 非OECD諸国 2040年度ゼロ	5.1
自動車	Scope1,2	絶対排出量 (ktCO ₂ e)	2021年度比 ▲38% (SBTi 1.5°C認定基準)	934
	Scope3	排出原単位 (gCO ₂ e/vkm)	2021年度比 ▲31~▲43% (IEA NZE~SBTi B2D)	198
海運	Scope1	ポートフォリオ 気候変動整合度	0%以下 (IMO GHG排出削減目標)	+1.82%

人的資本

古典的商業銀行モデルの終焉

- ✓ 安定・社会的地位 → 優秀な学生の一括採用
- ✓ 護送船団方式 → 文系エリート
- ✓ 単一事業体 → 本部官僚 vs 現場

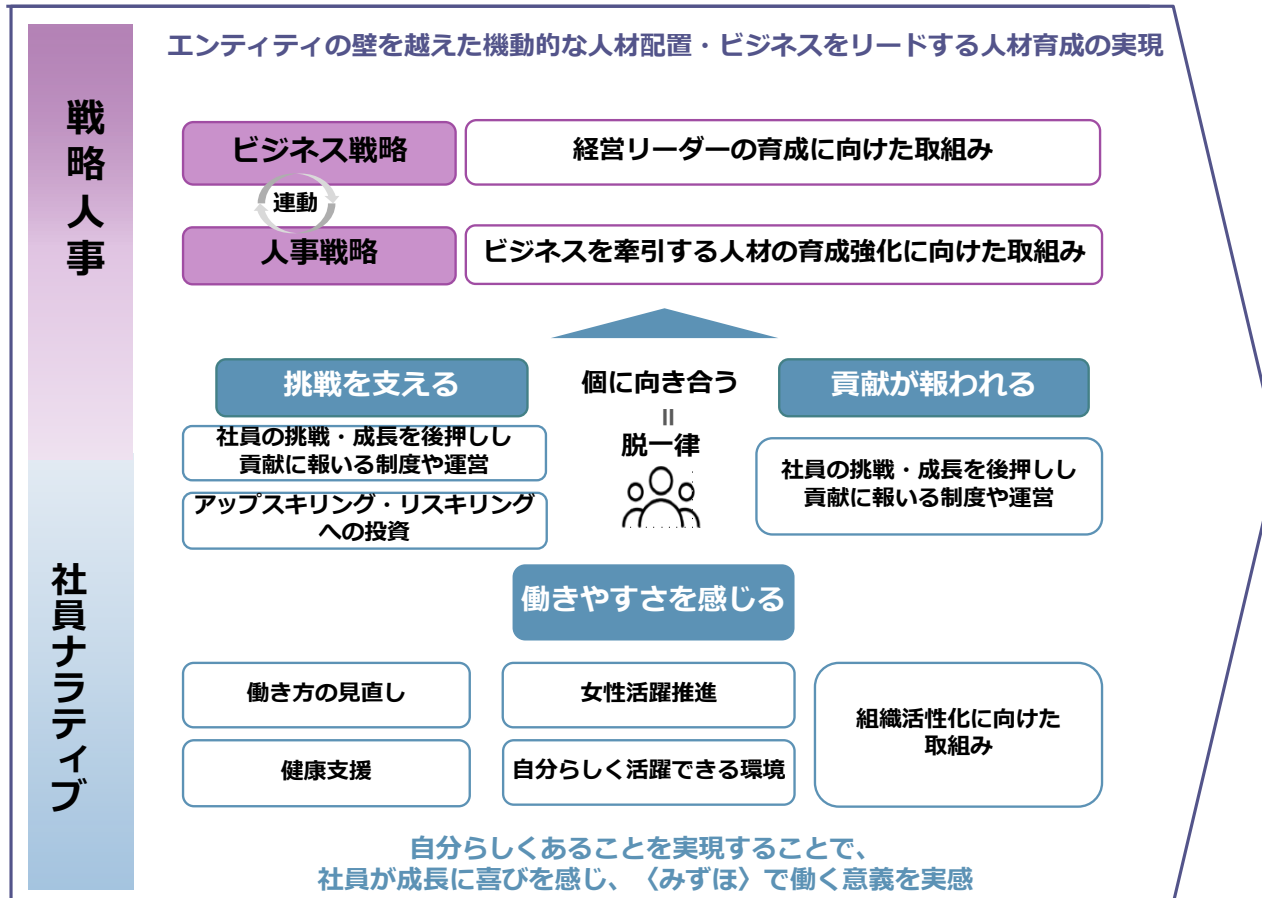
- 
- 挑戦よりも現状維持
 - 上意下達
 - 減点主義
 - Winner takes all



過去には機能していたパラダイムの無価値化

<かなで>を通じた人的資本の拡充

新しい人事の枠組み <かなで> を軸とした構成



人的資本の拡充

企業理念の実現

Mizuho's Corporate Identity

〈みずほ〉の企業理念



人的資本KPI

戦略人事の徹底
 かなで
 社員ナラティブの重視

事業戦略を実現する
 〈みずほ〉の人材強化

社員が活躍するための
 組織文化の構築

多様な社員の活躍と
 働きやすい環境整備

	実績 2022年度	目標 2025年度
経営人材	2倍以上	役員数の2倍以上 維持
DX人材	-	+100名
DXベーシック人材	-	+1,000名
個人コンサルティング人材	1,790名	2,100名
事業承継人材	-	+100名
イノベーション人材	-	+200名
グローバル人材	-	+150名
SX 人材 サステナビリティ 経営エキスパート	1,300名	1,600名
SX 人材 環境・ESG分野コンサル ト	130名	150名
エンゲージメントスコア	51%	65%
インクルージョンスコア	55%	65%
女性管理職比率 (部長相当職)	9%	14%
女性管理職比率 (課長相当職以上)	19%	21%
有給休暇取得率	78%	70%維持

2030年代早期
 に30%を目指
 す

人的資本の強化

企業理念の実現

ともに挑む。ともに実る。

MIZUHO

